AFICS-JAPAN

Newsletter

第 10 号

2018 年 7 月 31 日発行

Mission Statement

国連システム元国際公務員日本協会（AFICS-JAPAN）は、

- 国連システムの活動に協力します
- 会員のために必要な情報収集を行い、最新情報を提供します
- 会員相互の意見交換や情報交換のための交流会合を開催します
- 国際機関で働く人材育成を支援します

« 記事一覧 »

- 第 7 回総会開催
- 現場からの報告・高須幸雄前国連事務次長
- 明石康特別顧問の挨拶概要
- SGH 支援プログラム始動
- 国連年金の勉強会・相談会
- 国連職員増強に関する外務省との会合
- FAFICS 副会長選挙
- アンケート調査の結果
- 新執行部役員紹介
- 会員短信：著書紹介：植木安弘
  新入会員 10 名
  訃報：北谷勝秀氏
- お知らせ：
  国連日本人職員会会長との会合の案内
  第 8 回年次総会の案内
  会費納入のお願い
  会員からの投稿募集

第 7 回 AFICS-J 総会開催

新しい活動の開始

第 7 回年次総会は、3 月 28 日、国際文化会館で開催され、第 1 部総会議事、第 2 部総会プログラム「現場からの報告」講演ならびに挨拶、第 3 部懇親会が行われた。全体の進行と総会議長は山本和副会長がつとめた。

第 1 部総会議事では、会員 31 名の出席と 6 名の委任状参加で総会定足数を満たし、以下の 3 議案の審議を行った。まず、第 1 号議案 2017 年活動報告で、伊勢桃代会長から活動報告がなされた。第 2 号議案 2017 年収支決算報告及び監査報告は、会計担当委員澤田良枝から 2017 年収支決算報告、久山純弘監査役から収支決算書および関連書類がすべて適正であるとの監査報告書が提出された。第 3 議案 2018 年及び 2019 年事業計画案及び予算案は、伊勢会長から事業計画案の説明、澤田委員から予算案の説明がなされた。最後に第 4 号議案、執行委員及び監査役選挙の結果について、任期満了にともなう新執行委員と監査役の改選について、山本和選挙管理委員長から次期執行委員及び監査役候補者を決めるまで

の経緯の説明がなされ、候補者リストが提案された。審議の結果、いずれの４議案も原案通り承認された。

2017 年の主な活動としては、海外資産の税制に関するセミナーの開催（10 月 11 日、SMBC 信託銀行横浜支店会議室）、人材育成に係る勉強会の開催（３回）、ニュースレターの発行（2 回）の報告があった。

2018-19 年の事業計画では、これまで行ってきている会員のための年金や海外資産の扱いなどに関する説明会の開催、会員からの相談への対応、FAFICS や UNJSPF からの情報の配布に加え、新たな事業活動として、SGH、インターナショナルスクール、中学、高校での講演や生徒たちとの交流の場の開拓を含むスーパーグローバルハイスクール（SGH）支援プログラムの推進、一時帰国する日本人職員との会合や AFICS-J 会員に興味のある情報交換等を目的とする会合の開催などを行っていきたいという抱負が述べられた。さらに国連および外部関係団体、特に省庁との相互協力の推進に努めることが報告された。

最後に、伊勢会長から、SGH 支援プログラム、AFICS-Japan の今後の活動を支えるための資金援助や寄付、AFICS-J の今後の活動に関する提案や希望に関するアンケートへの回答の協力依頼があった。

総会議事に続いて、第２部プログラム「現場からの報告」講演ならびに挨拶では、はじめに高須幸雄大使（前国連管理担当事務次長）の「国連をマネージする：事務総長の改革案」の講演、続いて明石康特別顧問が挨

拶に立ち、AFICS-J の活動や国連における日本人人材の貢献への期待を述べられた。（高須大使の講演要約と明石特別顧問の挨拶概要は後掲記事を参照）

第３部懇親会は、参加者の集合写真を撮影したのち、昨年の「現場からの報告」の講演者である吉川元違前国連日本政府代表部特命全権大使の乾杯の音頭で始まり、外務省国際企画調整課長三宅浩史氏が挨拶に立ち、AFICS-J との協調について述べた。その後、参加者は和やかな歓談の時を過ごした。（出所：第７回 AFICS－J 総会報告書）

現場からの報告

総会の議事終了に続いて、今回は「現場からの報告」の講演者として、2017 年 5 月に国際連合管理担当事務次長を退任された高須幸雄大使にお願いした。長年にわたり、いろいろな立場から国連に関わり、歴代の事務総長が行なったマネージメント改革を、その時々の背景を踏まえてお話しくださり、大変興味深い講演だった。以下に高須大使の講演要旨を掲載。（記録：高瀬千賀子執行委員）

国連をマネージする：事務総長の改革案

高須幸雄大使（前国連管理担当事務次長）

私は、外務省本省、国連代表部そして国連事務局という三つの立場から国連の多方面の活動に 40 年ほど係わってきました。この間国連の管理分野の改革には全て直接関与してきており、最近まで事務次長として国連のマネージメント改革の責任を持っていましたので、本日は、事務局のマネージメントの特徴、歴代の事務局改革、そして、現在進行中の改革案についてお話します。

事務局のマネージメントの特徴と難しさ： 事務局の特徴としては、先ず、独自の財源、要員がないので、何事をするにも加盟国の承認を必要とすることが挙げられます。他方で、加盟国間で国連に何を期待するかについて合意がなく、優先課題についても、活動のレベルについても、ビジョンが大分違っています。また、財源については、第５委員会という予算を担当する委員会でコンセンサスでの合意が必要です。そのため、安保理などでどう決まろうと、この委員会で予算が削られれば、事務総長の活動が制限されるわけです。

国連事務局は、事務総長の下に 98 の部局に細分化され、それぞれに事務処理担当のユニットがあり、別々に事務手続きをしてきました。このため取り扱いに違いが出て、これを繋げる IT システムもありませんでした。事務次長として率先した UMOJA によりやっと手続きの標準化、簡素化が実現しました。

事務局の問題点としては、職員の業績評価の客観性と説明責任体制が挙げられます。また、現状を改革するということには大変な努力とエネルギーを要します。幹部は基本的に現状維持を選好します。また、職員組合との交渉も非常に大変です。専門機関については事務総長は調整権限しか持たないため、命令指示することはできません。国連システム全体での取り組みを要する SDGs の実現などに関しては、相当な説得力が必要となります。

事務局の管理改革： 私は 1980 年代以降の管理改革にいろいろな立場から全部関与しました。1985～1986 年の日本が提案した行革の背景には、国連が 40 年経ち、また途上国が数を推して決議を通して国連の活動の拡大を図ったため、予算が膨張してしまったということがあります。改革には強い抵抗があったため、担当官として全加盟国代表部を訪問して説得しました。賢人会議を作り、その勧告を下に進めるという 2 年掛りの作業となりましたが、職員を 15%、幹部職員を 25%削減し、予算はコンセンサスで決めるという新しい予算手続きを作る事ができました。これが決議 41/213 という、今も金科玉条とされている決議です。

また、私が事務局の責任者として係わった、潘事務総長の第 2 期目の 2012 年からの管理改革は、大きな変化をもたらしました。グローバルで真に効率的な事務局にするという目標のため、前述の Umoja という、スワヒリ語で「統一」という意味のシステムを導入したことが挙げられます。これは、全世界に散らばる事務局の財務、人事、調達など様々な手続きをコンピューター化して統一化するという画期的なものです。また、予算の抑制、職員の定期異動制度の導入、IT の新戦略、本部建物の改築も改革の一旦を担うものでした。

高須幸雄氏 プロフィール

国連事務次長、国連事務総長特別顧問（人間の安全保障担当）。

外務省入省後、国連日本代表部参事官、西欧二課長、国連政策課長、インドネシア公使などを歴任。

1993 年 事務次長補（財務官）として、国連の予算・財政管理を担当。

1997 年 国連日本代表部大使に着任し、安全保障理事会を担当。

2000 年 国際社会協力部長に就任し、人間の安全保障を推進。在ウィーン代表部大使を経て、国連常駐代表を務め（2007 年—2010 年）、安保理議長に 2 回就任。

2012 年—2017 年 5 月 国連事務次長（行政管理局長）として国連のオペレーション全体の責任者。

やり残したこととして Global Service Delivery Model が挙げられます。給与、人事、出張、調達など様々な手続処理は現在世界各地の事務所で行われていますが、2020 年までに２－３ヶ所に統合整理するという構想です。これが実現すれば非常に重要な合理化になると期待しています。

現在の事務局の改革： グテレス事務総長の改革のビジョンは、紛争、貧困などそれぞれの状況に応じ国連システムとして最善の対応ができる様な事務局に改革する事です。そのため、プロセス、手続きより、結果を重視する、課題を別々に対応するのではなく、統合性をもって事務局全体で取り組む、フィールドへのサポートを強化するため、迅速、機敏な事務局にすることが目標です。

政治、安全保障分野では、紛争防止と平和構築の強化、政務局と PKO 局の地域担当オフィスの並列配置、統合のために、政務局と PKO 局の機構の見直しをしています。また、開発分野では、国連システムが一体となって SDGs 達成に向けて提携する為に、戦略枠組み、合意文書を作る、フィールドではカントリーチームを強化し、各機関のオフィスをできる範囲で統合しようとしています。もう一つ重要な点として、グローバルな視点を強化し、その為に経済社会局 (DESA) を強化するという点が挙げられます。

マネージメント分野では、すでに進行中の改革に加えて、行政手続きの簡素化、現場への権限移譲、予算や職員の柔軟性の拡大などを提案して、加盟国の審議が進んでいます。

纏め： 管理改革を成功させる上で一番重要な要素は、「事務総長のコミットメント(Commitment)と担当責任者の不退転の決意（Determination）」だと思います。事務総長のビジョンを具体的改革に結実させるためには、抵抗勢力に立ち向かい、事務局内各部局、職員組合、加盟国すべての同意を取り付けることが前提になります。政策決定の過程は非常に時間が掛かり、忍耐強い説得努力を必要とします。管理改革の難しさは、トップレベルで政治的に妥協や合意ができれば実現すると言う話ではないことです。改革案の詳細な内容と影響、過去の改革の経緯などに関する技術的な知識を持ち、粘り強い忍耐力を兼ね備えたプロフェッショナルの仕事があって初めて成果を生むのだと思います。

総会プログラム：明石康特別顧問の挨拶概要

伊勢会長を中心として AFICS-Japan の執行委員会は非常に良く機能している。ニュースレターも良くできているし、新会員も次々と入ってきて、AFICS-Japan は充分に将来性を持ち、そしてダイナミズムがある組織であると確信する。このフレームワークの中で、いろいろな問題について新しい情報を得る機会を持ち、また問題意識を反映させながら機能していくことができれば、世界に優たる国連職員の同窓会組織になるのではないかと思う。

国連改革については、どんな改革案でも実施する人たちが改革案を理解し、コミットしないと機能しないということが現実だと思う。国連は人類のビジョンを反映しているが、ビジョンだけでは人類も国際社会もやっていけない。世界がアンチ・グローバリズム、ポピュリズムに走っている現状では紛争の数は増えている。色々な意味で「出たとこ勝負」というのが実態だ。最大の加盟国であり最大の予算供出国であるアメリカが今のような大統領のもとにある限り、国連にとって危険な時代が続くと思われる。このような嵐の時は、出来ることを選んでやっていくしか方法がない。「予防外交」というのは言うは易く、実効は難しい。そのような時代に国連で働く職員に、私たちとしては声援を送ることしかできない。日本の優秀な人材が国連に入り、リーダーシップをとるような部門で新しい国連を作っていくことができれば、それが日本の国益にもかない、また世界全体の利益にも合致するのではないだろうか。

SGH 支援プログラム始動
「国連機関で働く面白さとやりがい」－ICU 高校

SGH 支援プログラムの活動の一環として、「国連機関で働く面白さとやりがい」と題するイベントを6月6日、午前10時から午後12時、ICU 高校図書館で行った。これは昨年9月 ICU 高校の始業式後に SGH プロジェクトのテストケースとして山本和副会長と森田宏子会員が国連勤務の経験に基づくプレゼンテーションを3年生を対象に実施し、好評価を受け今年も講演の要請を受けたもので、6月4日からの ICU 高校のキリスト教週間のマルチイベントの一つとして企画された。AFICS-J からは山本副会長、森田会員、山崎節子会員、高瀬千賀子委員、ICU 高校からは2年生 48 名が参加した。2時間のイベントの前半は山本副会長がパワーポイントを用いた講演を行い、質疑応答の後、後半は生徒主導によるパネルディスカッションが行われ、森田氏、山崎氏、高瀬氏がパネリストとして生徒とのディスカッションに加わった。イベント後の生徒からの感想では、「国連の仕事が具体的にわかって良かった。」、「直接国連で働いた方からの体験を聞くことで、国連が身近な存在になったと感じた。」という意見が多くみられた。また英語を使って仕事をしたいと思っている生徒達には、異文化の環境の国連の仕事で求められる英語能力、相手を尊重しながら意志疎通を図るコミュニケーション力、専門分野を極める必要性、論理的思考の大切さ、具体的な仕事の方向性を考える機会を与えることができたのは有意義だったと思う。今回のイベントを通じて、国連の全体像を

理解できるようなプレゼンテーションと 2、3 人による異なる職種や国際機関での体験を話すことができるパネリストとの質疑応答の組み合わせは良いパターンだったと感じた。それと共に、一方的な講義に限らず、生徒主導の要素、対話中心、参加型の機会が生徒達にとってさらに印象的なものになった感があった。今後 SGH 支援プログラムを推進するにあたっては、事前アンケートや生徒主導の体制をどう取るかなど、対象の学校と十分な協議および準備を必要とするが、このような可能性を探る事は勧めたいと思う。

ICU 高校では 7 月 14 日春学期の終業式の日に、3 年生および 2 年生全員に対し、吉川元偉前国連大使ご自身の経験に基づく外交官、国際的リーダーとしての条件についての講演会を行った。国連大使時代に作成されたビデオなどを見せ、高校生のころから自分は将来何を目的に生きて行くべきかを考えながら歩んで欲しいと力づけられ、生徒たちの質問に丁寧に答えられた。講演会終了後も先生を取りまいて生徒たちの質問が続いた。（記録：山本副会長、高瀬委員）

SGH 支援プログラム　タスクフォース立ち上げ

AFICS-J の新しい活動の中心となる SGH 支援プログラムのタスクフォース（TF）が立ち上げられ、アンケート調査の際にメンバーとして参加できる会員を募ったところ、執行部以外から 6 名の参加表明があり、その第 1 回会合が 6 月 15 日、国際文化会館で開かれた。（タスクフォースメンバーについては後述。）伊勢会長による SGH 支援プログラムの背景と目的に関する説明の後、プログラムコーディネーターの井上健委員と高瀬千賀子委員の紹介に続き、タスクフォースの役割やメンバーの役割分担の確認、今後の活動予定について話し合いが行われた。タスクフォースの役割としては、①企画、推進と進捗状況、成果の把握などの総合的マネジメント、②講演の内容や枠組みの設定と講師の選択、③資料やパワーポイント等のツールに関する提言や準備、④対象校の選択と学校との連絡、⑤ AFICS-J のメンバーへの広報と講師候補の獲得が提案され合意を得た。このプログラムを AFICS-J としてのユニーク、かつ持続可能な活動とするためには、プロセスと枠組みを整えることが必要であり、その努力を早急に進めることと、実際のプログラム自体の実行の推進を同時並行で行うことが確認された。活動に関しては、コーディネーターへの報告など、情報の共有をしながら学んでいくことを心がけ、必要に応じて TF 会合を開くこと、また前述の ICU 高校での体験を参考に、国連での異なった経験をもつ講師が複数でチームを作り、対象校を訪問することを基本方針とすることとした。最後に、このプログラムを AFICS－J の主要な活動の一つとするために、メンバーの持つ知識と経験を活用し人材育成への貢献をする意義と、そのための組織作りとタスクフォースの役割の重要性が確認された。

タスクフォースのメンバーには、伊勢会長、山本副会長、井上委員、高瀬委員、佐藤純子委員、和気邦夫委員、久山監査役、久木田純会員、奥田智恵子会員、忍足謙朗会員、登丸求巳会員、森田宏子会員、長谷川真一会員、山崎節子会員の 14 名が参加している。（2018 年 7 月 31 日現在）

SGH 支援プログラムでは今後の活動として、10 月 3 日に青山学院高等部のグローバルウィークで礼拝におけるメッセージと午後のワークショップ開催（山本副会長、山崎会員が参加）、10 月 5 日、岐阜県立大垣北高等学校で 1 年生を対象とした SDGs に関する講義と座談会（高瀬委員が参加）を予定している。

国連年金に関する勉強会・相談会

AFICS-J のメンバーの皆様には、国連年金についての関心が高く、事務局にも質問が寄せられている。今回は AFICS-J の執行委員で年金を担当する永吉紀子委員を講師として、国連年金に関する勉強会・相談会を 4 月 6 日、国連大学 2 階ライブラリーで開催した。今回は、これまでの年金セミナーの形式とは異なり、前半はメンバーに共通する関心事項や問題点について、最近の事例を元にした説明、後半は個々の相談に応じる形で行われた。永吉委員は、パワーポイントを使用し、国連年金の概要（投資部門と年金経営・管理）、新しい年金システム(IPAS)と Member Self Service (MSS)の利用方法、Two Track System, Certificate of Entitlement (CE), 遺族年金への変更手続き、サイン認証などを中心に説明し、参加者からの質問に答えた。

投資部門：年金基金の総資産価値は$65.1billion (約 6.5 兆円。2018 年 3 月 16 日現在)。2016 年の投資効果はあまり芳しくなかったが、2017 年は 18.5%の総資産の増加があり好調だった。

年金基金運営・管理：2015 年の新年金システム(IPAS)導入で不手際が続いていたが、現在は改善の方向にある。問題がある場合は、AFICS-J 事務局まで連絡をいただければ、AFICS-J として永吉委員から年金局に注意喚起をし改善を求める。

新しい年金システム（IPAS）の賢い利用法：年金受給者は最初に新しいウェブサイト、Member Self Service（MSS）（www.unjspf.org）に Register し、このサイトを操作することで自分の年金についての情報

を知ることができる。年金局への連絡や各種フォーム、年金関連文書もこのサイトから入手できるのでこのサイトを大いに活用してほしい。サイトの操作の仕方は組み込まれている Self-tutorial service で学ぶことができる。

Two Track System （ローカル・トラック）：為替、物価指数、税金その他のファクターを総合的に考慮し、四半期ごとに米国基準価値とローカル（日本の場合日本価値）を比較し有利な金額に決定される。日本の場合、1 年のうち 6 カ月以上居住、住民票を提出し証明することが資格条件。いったん Two Track System に変更すると元には戻れないので見積もりを取ってから決める。（詳細については AFICS-Japan のウェブサイトに掲載。）

Certificate of Entitlement（CE）：年金を受け取るためには毎年 5 月に郵便で送付されてくる CE にサインをし、オリジナルを郵便で送り返す必要がある。自分の CE が受理されたかどうかは Member Self Service (MSS)で確認できる。5 月までに CE を受け取らなかった場合は住所変更届を出していない可能性がある。病気、怪我などでサインができなくなった場合は、拇印でも大丈夫だが、初回のみ医師の証明書が必要である。

遺族年金への変更手続き：年金受給者死亡の場合は速やかに年金局へ通知、配偶者は遺族年金に切り替えるための手続きをする必要がある。（詳細については下記サイトを参照。）手続きに必要な書類 （英語で記載、あるいは英語訳が必要）は、①死亡を確認できる書類（死亡が記載された戸籍謄本、住民票）、②婚姻を証明する書類（戸籍謄本）、③遺族年金受給者の銀行振込先申請・住所届出のフォーム（PENS E/2）、④Two Track System 継続の場合のフォーム（PENS E/10）、⑤サイン認証である。

（http://www.afics-japan.org/j/wp-content/uploads/2013/01/遺族年金の受取りに必要な書類 1.pdf）

サイン認証（Notary public）：年金関連の書類を提出する場合、しばしばサイン認証の必要を要求される。サイン認証は東京では国連広報センター（国連大学ビル内）、地方の場合は各地の公証人役場でできる。サイン認証には、本人確認のためパスポート、運転免許証、保険証など写真付き証明書が必要。本人サインと、認証した日付は同じ日でなくてはならない。原則的には公証人の目の前でサインをする。病気や怪我などでサインができなくなった場合は、医師の証明書が必要である。（記録：佐藤純子委員）

その他、事前に参加者から送られた質問や疑問に対する答えについては AFICS－Japan のウェブサイトに掲載されているので参照していただきたい。また説明会で使用したパワーポイントを希望される方は AFICS-J 事務局までご連絡を。（事務局連絡先：afics.japan@gmail.com）

日本人国連職員増強に関する外務省との会合

AFICS-J では、会の掲げる目標や活動について外務省に機会ある時に話しをし、国連における日本人職員の状況等の説明をお願いしてきた。この度、同省の最近の取組みについて説明を聞き、意見交換をする機会を得ることが

でき、6 月 13 日午後 3 時 15 分より同省会議室で会合を行った。当方からは伊勢会長、山本副会長、井上委員、久山監査役、高瀬委員、和気委員、澤田委員が参加した。先方からは、国際企画調整課長三宅浩史氏、国際機関人事センター室長本田誠氏、同室課長補佐萩野敦年氏、同紅谷明氏が参加された。

先ず、本田人事センター室長から今回の会合資料に基づき最近の取組みについて以下の概略説明があった。

１）「発掘・育成すべき潜在的な国際機関日本人職員の人材像」：主要用件として「国際機関職員という職業を通じた自己実現を志し」（例えば、SGDs や国際機関マンデートの達成に向けて具体的に協働する意思を有する者）、かつ客観用件として「国際機関で勤務し得る資質と能力を有する」（語学力、専門性、修士号以上の学位等）を兼ね備えた者。

2) SGH 指定校・アソシエイト校関係者を対象とした国際機関人事センターによる「国際機関キャリアガイダンス」の概要。

３）その他、様々な分野を対象とした社会人および学生向けに開催している国際機関就職ガイダンスやキャリア・セミナーなどの活動。

これらの説明に対して、伊勢会長より AFICS-J が新しく推し進める SGH 支援プログラム設立の経緯について説明があり、山本副会長、井上委員、久山監査役、高瀬委員、和気委員からこのプログラムの現在の活動状況や今後の方針について更なる説明が行われた。

AFICS－J として外務省の国際人事に関する取組みを興味深く感じ高く評価すると共に、発掘・育成すべき「日本人職員人材像」については、SGH 支援プログラムの内容を固めていく上でも基本となる課題であり、またキャリア・ガイダンスは SGH 支援プログラムを作成する上で参考とさせていただきたく、今後、外務省の協力を得ながら、SGH 支援プログラムによる次世代の国際的リーダーとなる人材育成に貢献できるよう努力していきたい旨を伝えた。これに対して、外務省からも、SGH 支援プログラムについて関心を示していただき、個別具体的な協力の可能性の検討をしていきたいということであった。AFICS-J からは井上委員と高瀬委員がこのプログラムの窓口となることが伝えられた。

第 47 回 FAFICS Council 副会長選挙

FAFICS Council（元国際公務員協会連合会）は、2018 年 7 月 20 日～25 日、ローマの FAO 会議室での第 47 回年次総会開催に先立ち、FAFICS 新役員選挙のための候補者の指名公募を行った。FAFICS の Vice-Presidents（７名）は毎年選挙で４年再選が限度であり、既に３年副会長を務めてきた佐藤委員は今

年が候補者資格のある最後の年となった。地域バランスの見地から AFICS-Japan は佐藤純子書記を副会長として推薦し、佐藤委員は再選を果たした。（FAFICS Council の報告書は次号に掲載予定。）

2018 年アンケート調査の結果

今回のアンケートは 2014 年、2015 年に続き、第 3 回目のアンケート実施となった。回答総数は 5 名であったが、AFICS-J として取り上げてほしいテーマや関心事については、国連年金に関する情報、国連改革の進展、大学への出前講座の検討、他の国の AFICS の活動、若者や学生の国際機関への関心の喚起があった。その他「年金に関する勉強会や税務セミナーは大変参考になったので、遠方からの参加希望者が多い時はビデオ会議ができないものか。」という意見や、ニュースレター、ホームページの充実への希望があった。今後の検討課題としたいと思う。

2018-2020 年 新執行部役員の顔ぶれ

第 7 回年次総会で承認された新執行部役員：

会長： 伊勢桃代

副会長/会計/会報：山本和

書記/ウェブサイト：佐藤純子

書記/ウェブサイト：宮地節子

会計/会報：澤田良枝

年金/ウェブサイト：永吉紀子

SGH タスクフォース：井上健

SGH タスクフォース/ウェブサイト/会報：高瀬千賀子

SGH タスクフォース：和気邦夫

監査役：久山純弘（SGH タスクフォースも担当）

会員短信

新入会員：藤野彰さん（UNODC）、箱山富美子さん（UNICEF）、村井暁子さん（World Bank）、大崎（富田）敬子さん（UNDESA）、高須幸雄さん（DM）、玉内みちるさん（UNICEF）米川佳伸さん（UNDESA）、鹿野和子さん（UNFPA）、長谷川祐弘さん（UNDP、UNDPKO）、藤村建夫さん（UN Office for South-South Cooperation）の 10 名が、新たに会員となりました。2018 年 7 月現在の会員数は 87 人です。

著書紹介：『国際連合・その役割と機能』日本評論社、植木安弘（上智大学総合グローバル学部教授、元国連事務局広報官）国際連合の仕組み、役割、機能について、国連憲章に沿って解説する。集団安全保障体制のあり方と国際政治からの影響、紛争の平和的解決や平和維持活動、安全保障理事会や他の主要機関の役割

と機能、戦後復興から持続可能な開発目標（SDGs）までを含む経済社会開発への取組の進展、人権や難民問題、国際法の発展、敵国条項、歴代事務総長の選出と評価など、興味深いトピックを随所に織り込み、「国連という切り口から見る国際政治・経済・社会論」。

訃報： 4月6日、北谷勝秀氏が永眠されました。告別式は4月9日にとりおこなわれ、AFICS-Japan から供花を送りました。AFICS-Japan だけでなく国連邦人職員に対して、多方面にわたり、励ましのお言葉とご助言をいただきました。ご冥福をお祈りいたします。

発行：国連システム元国際公務員日本協会（AFICS-Japan)執行委員会
Email: afics.japan@gmail.com
Web: www.afics-japan.org

≪国連人≫

アフリカの持続可能な発展のための教育というプロジェクトでナイジェリアのイバダンを訪れた。市内から車で約1時間の村、そこでは女性たちが裸足でパーム油の絞り出しを行い、子供たちはタロイモの収穫の手伝いをしていた。東洋人の私の顔が珍しいのか、最初は遠くから恥ずかしそうに見ていた子供たちだったがいつの間に30人ほどがが私を囲み握手を求めてきた。貧しくて学校には行っていないと話していた。

国連SDGsの目標4には、持続可能な発展のための教育の大切さが謳われ、2030年までにすべての男女の初等・中等教育修了の目標が掲げられている。イバダンで会った子供たちの澄んだ瞳と笑顔は今でも忘れられず、世界中の貧困地域の子供たちが学校へ通えるような教育の支援活動をできるところから始めたい。

（編集子）

お知らせ

- **NY国連日本人職員会会長との会合のご案内：**

2018年8月9日（木）10:00-12:00、国連大学本部2階。
本年2月にNY国連日本人職員会会長に就任された小松原茂樹氏に、現在取り組まれている2019年横浜開催予定の第7回アフリカ会議（TICAD VII）の準備状況や国連マネジメント改革などについてお話をしていただきます。参加ご希望の方は8月2日（木）までにAFICS-J事務局（afics.japan@gmail.com）までご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしております。

- **第8回年次総会のご案内：**

2019年3月25日（月）国際文化会館、午後5時半から開催予定。

- **2018年会費納入のお願い：**

2018年会費（5千円）の納入をお願いします。
三菱東京UFJ銀行麹町支店（店番 616） 普通預金
口座番号 0118643、
口座名義：アフィックス ジャパン ヤマモト カノウ
（AFICS-Japan 山本和）
☆前年度会費未納の方は、その分も合わせてお振込みください。
なお、年会費は年次総会受付でも納入できます。

- **会員からの投稿募集：**

会員の皆様の著書やリタイア後のお話しをニュースレターで紹介したいと思います。またニュースレターで取り上げてほしいテーマなどございましたらAFICS-J事務局までご連絡ください。